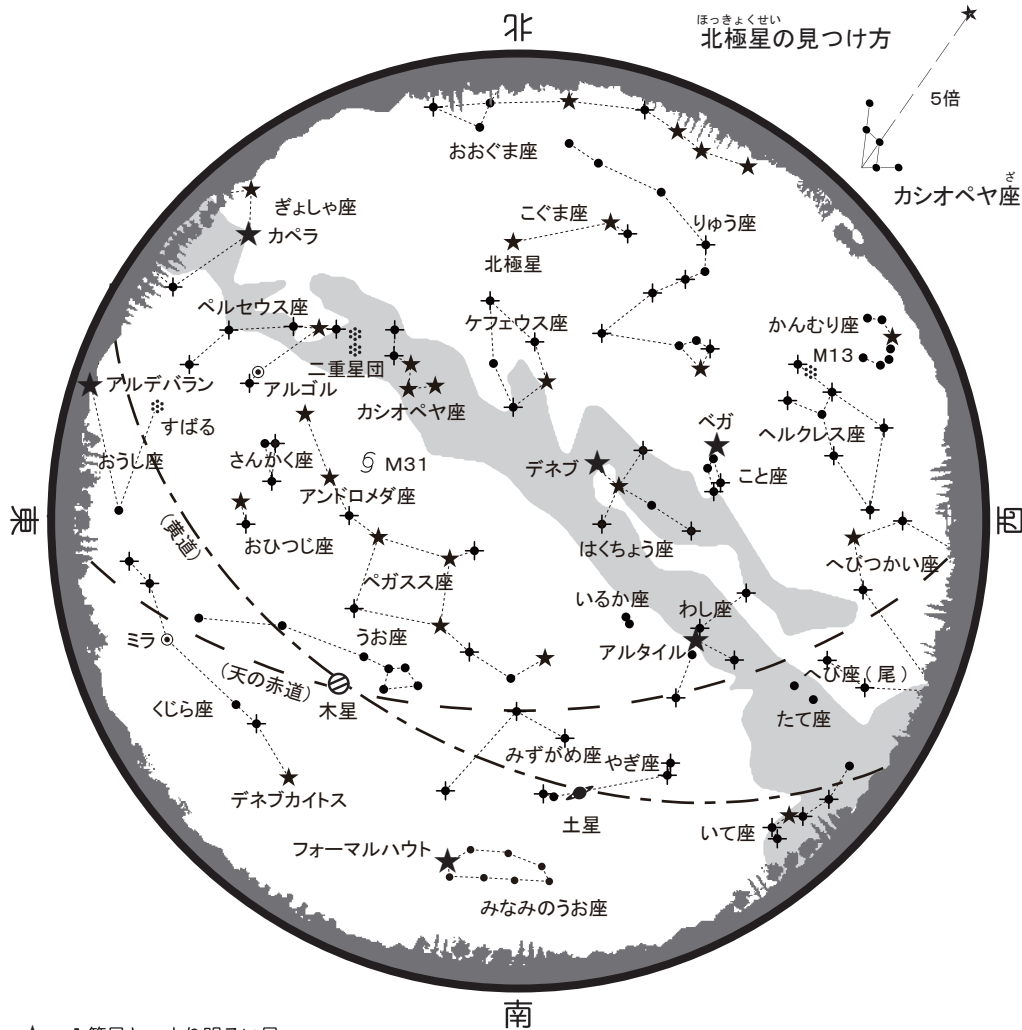


富山で見える 2022年10月の星空

自分の見たい方角を下にして、その方角の空を見よう。

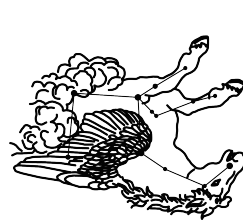


- ★ 1等星と、より明るい星
- ★ 2等星
- ✦ 3等星
- 4等星と、より暗い星
- ◎ 変光星
- ※ 星団
- ☁ 星雲
- ☾ 銀河

～この星空が見えるのは～
 10月 5日 午後9時ころ
 10月 20日 午後8時ころ
 11月 5日 午後7時ころ

～月のようす～

10月 3日 上弦 ☾
 10月 10日 満月 ○
 10月 18日 下弦 ☽
 10月 25日 新月 ●



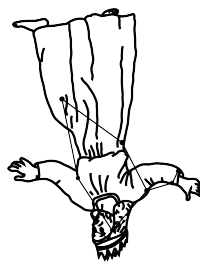
ペガサス座

体の部分が「秋の四辺形」と呼ばれる大きな四角形の星の並びになっています。秋の四辺形は、秋の星座たちを探す目印です。ペガサスは背中に翼があり空を飛ぶことのできる馬です。星座絵では、後ろ半分が雲にかくれて見えません。



カシオペア座

北極星を見つけるための星座としてよく知られています。Mの形の星の並びが目印です。日本では、船のいかりや山の形に似ていることから「いかり星」とか「山形星」と呼ばれました。カシオペアはギリシャ神話に出てくる王妃の名前です。



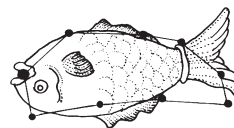
ケフェウス座

北の空にある、細長い五角形の星の並びが特徴の星座です。濃い赤色をした「ガーネットスター」と呼ばれる星があります。ギリシャ神話では古代エチオピアの国王で、妻のカシオペア王妃や娘のアンドロメダ姫も星座になっています。



みずがめ座

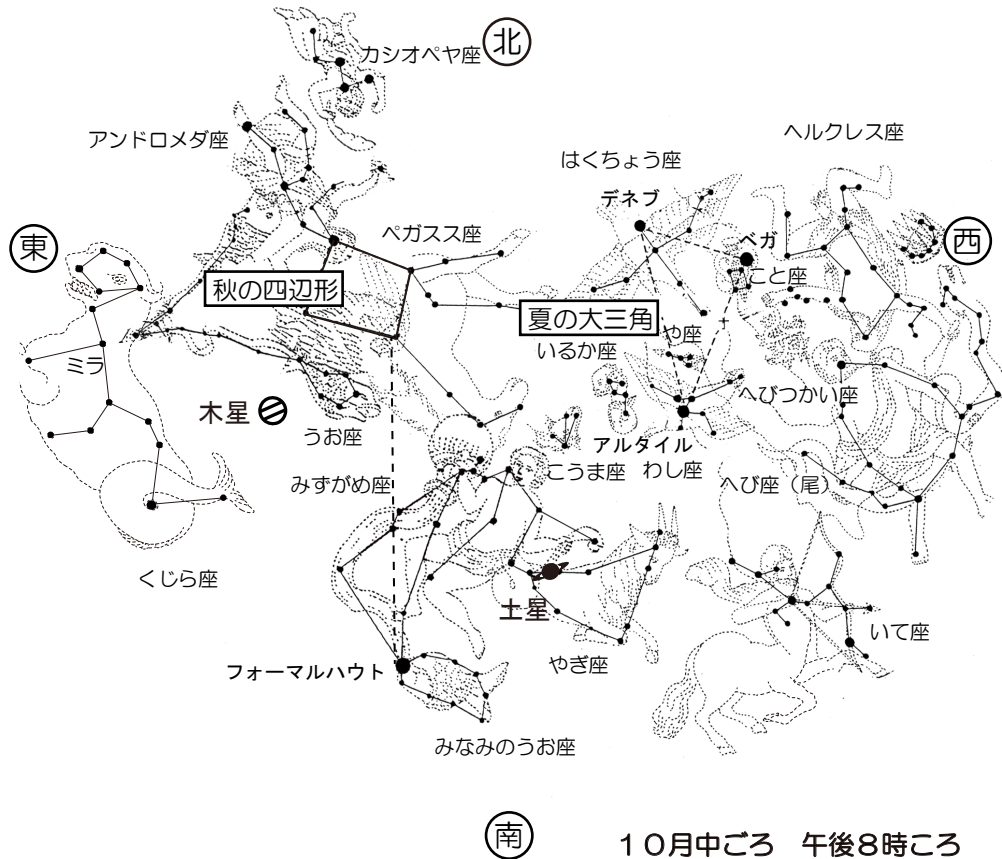
秋の四辺形からフォーマルハウトの間にある、暗い星の並びがみずがめ座です。みずがめ座を中心に、うお座やみなみのうお座、やぎ座（魚ヤギ）、くじら座など水にまつわる星座が並んでいるのは、星座の原型ができた古代メソポタミア時代、太陽がみずがめ座のあたりに来るころに雨期を迎えたためといわれています。



みなみのうお座

南の空の低いところで、ぼつんとかがやいている白色の1等星フォーマルハウトが目印です。フォーマルハウトはアラビア語で「魚の口」という意味で、名前のように、ここが魚の口の部分になっています。「秋の一つ星」や「南の一つ星」とも呼ばれています。

秋の星座の見つけかた



10月中ごろ 午後8時ころ

- 1 頭の真上（天頂）から少し東のところに、秋の四辺形を見つけます。
- 2 秋の四辺形の西側の辺を南にのばし、みなみのうお座のフォーマルハウトを見つけます。
- 3 秋の四辺形とフォーマルハウトの間にみずがめ座、さらにその西側に逆三角形の形をしたやぎ座を見つけます。今年はやぎ座に土星があります。
- 4 秋の四辺形の南東に明るく輝く木星を見つけます。
- 5 西の空にまだ見えている夏の大三角や、その近くにある、や座、いるか座、こうま座も見つけてみましょう。

太陽系最大の惑星 木星

宵のうちの南東の空に、ひときわ明るい星が見えるようになりました。木星です。-2.9等級の明るさで、街の中でも簡単に見つけることができます。今年の木星はうお座にあります。



望遠鏡で木星を見ると、表面の縞模様を楽しむことができます。条件がよければ、「大赤斑」と呼ばれる目玉のような模様が見えることもあります。

木星には、現在約80個の衛星（月）がみつかっています。このうち「イオ」、「エウロパ」、「ガニメデ」、「カリスト」の4つの「ガリレオ衛星」は特に大きな衛星で、小型の望遠鏡でも見ることができます。木星の見頃は来年1月頃までです。

十三夜のお月見



今年の中秋の名月は9月10日でした。皆さんはお月見をしましたか？日本には、中秋の名月（十五夜）の約1か月後の「十三夜」にもお月見をする風習があります。今年の「十三夜」は10月8日。満月の二日前のわずかに欠けた月が見られます。十三夜の月は中秋の名月の後に見る月なので「後の月」ともいわれます。また、栗や枝豆などを供えることから「栗名月」や「豆名月」ともよばれています。中秋の名月のお月見は平安時代に中国から伝わったものですが、「十三夜」にお月見をするのは日本だけの風習です。少し欠けた月が栗のような形に見えるのもおもしろいですよ。十三夜のお月見も楽しんでみてはいかがでしょうか。

